蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆
近藤真弘
〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番10
TEL.0258-32-2811
◆スタッフ◆
小林国二・高橋 潔・高橋利春
屋代 健・飯泉隆史・太田匡哉
山内芳次・近藤龍弘・近藤マリ子
近藤久美子
印刷・㈱中央印刷

ホームページ

インスタグラム

ご家族の皆さまでご覧ください

『縁　起』

泰忍　弘

あけましておめでとうございます

今年も皆様にとって
良い一年になることをご祈念いたします

安善寺　稲荷堂

さて、昨年はこの誌面でも何度か取り上げましたが、大本山總持寺御開山瑩山紹瑾禅師の七〇〇回大遠忌の年でありました。私も大本山總持寺での法要や、羽咋の永光寺様での法要、県内で行われた法要など多くの大遠忌法要に関わらせていただいたことは大変ありがたいご勝縁でございました。

そんな中、残念であったのは七〇〇数年前瑩山禅師が開創され、現在の横浜に移転する前の能登にある大本山總持寺祖院（以下祖院）が一年前、一月一日の能登半島地震で甚大な被害に遭い、この地で大遠忌法要が盛大に開催することができなかったことです。

祖院は平成十九年の能登半島地震の際も大きな被害に遭いました。その後全国の曹洞宗関係者の寄付などにより、宗門を挙げて復興に取り組み、十四年の長きに亘る復興工事を経て、令和三年四月に復興落慶式を迎えたところでした。その後わずか三年、瑩山禅師七〇〇回大遠忌正当の年の始まりの日にまさか前回を凌ぐ大地震に見舞われようとは、予想だにしておりませんでした。

横浜の大本山總持寺をはじめ各所で滞りなく盛大に大遠忌法要が営まれている中でも、私を含め多くの僧侶は祖院の今後に対して心中穏やかではなかったと思います。

そんな中、大本山總持寺で十月の慶讃法要が終わって間もなく大変嬉しい知らせが届きました。それは祖院にある十六棟の建造物を重要文化財に新規指定することを答申したという知らせです。これにより今後復興に関わる金銭的な部分で助かることはもとより、それ以上に有り難いのは、震災に遭った能登の地に新たな重要文化財が誕生したことです。これは被災地にとってひとすじの光であり、この先の復興に向けての大いなる一助になると思います。

仏教には「縁起」の教えがございます。縁起とは他との関係が縁となって正起することであり、すべての現象や条件が相互に関係しあって成立しているものであり、独立自存のものではなく、諸条件や原因が無くなれば結果も自ずからなくなるということです。

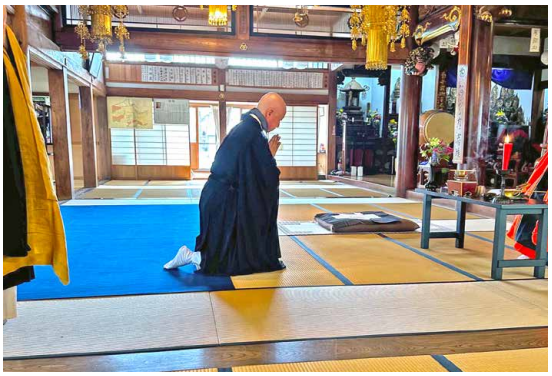
瑩山禅師が開創された大本山總持寺が七〇〇余年という長い歳月の間、多くの困難や災害を乗り越え、数限りない多くの縁に恵まれ今日まで受け継がれてきました。そして大本山總持寺が現在祖院として被災された能登に暮らす人々、また曹洞宗にとって希望の光となることは何にも代えがたいことです。

今後多くの方々が能登の地に足を運び、瑩山禅師の縁に触れていただき、能登地方、祖院復興の一助になることを望みます。

【特集】

『人生初めての得度式（出家）』

飯泉　隆史



私は旅行会社でお寺様やお檀家様との本山やお寺を巡る仕事をしています。ゆえにお寺様と話す機会が多いのですが、こんなことをよく言われます。「出家（得度）はしないの？」

先代ビーエス観光社長の私の父親も得度を受けています。お寺さんになるには本山での修行をはじめいくつもの式を受けなくてはなりません。得度はその入り口なのです。が私はなかなか踏ん切りがつかず、いつかいつかと話していました。

昨年、令和六年は父親が十三回忌を迎える年でした。ちょっとした流れもありましたが、この機会に得度式を受けてみようと一大決心をし、安善寺様のご住職にお願いした所、こころよくお引き受けいただきました。色々なお寺様での式を見たことはありますが、得度式を見たことはなく果たして私にできるのだろうかと不安になってきましたが、安善寺様の他に親交があります津南の大龍院様や魚沼の浄光寺様がお手伝いに来ていただけるとのことで安心いたしました。（お二人とも安善寺様の奈良の旅行にご参加いただきました。）

一つ不安というか抵抗があるとすればやはり剃髪。頭をツルツルにすることですよね。生まれた時ですら少しは髪の毛がありますよね。仕事上、剃髪したお寺さんをよく見ますが自分がその立場になるとは思いもしませんでしたが、慣れるために二週間前から髪をそりました。中々慣れないものでやっぱり寒くて、色々と過敏になってしまいます。

式も近づく中、何をすればよいのか全く分からず、前日になり簡単に所作を教えていただきました。難しいことはありませんが緊張してやらかしてしまったらどうしようかそればかり考えていました。式中は隣に大龍院様がついてくれるとのことで安心しました。

そして四月二十七日式の当日、着付けなど全く分からないので一から着させていただき式に臨みました。

親戚や家族が待つ中、得度式が本堂で始まりました。緊張の中、慣れない仕方の礼拝は着物に引っかかったりして大変でした。そして何度も行う礼拝は大変。つらい。はっきり言ってスクワットです。年配のお寺さんはすごい。そして式の最後志を述べて終了いたしました。

終わった後は何だか清々しい気分でした。仏教徒としての僧侶の名前を頂きました。ご住職真弘さんの真を頂き、自分の隆史の隆を合わせて真隆という名前です。また絡子等も頂きました。

この度晴れて安善寺様ご住職のお弟子さんとなりました。得度の弟子は私が初めてとのことです。安善寺様の名に恥じないよう生活していきたいと思います。得度をさせていただき本当に良かったなと思います。今後の人生仏の教えを守り、精進していきたいと思います。

安善寺さま、むかし昔のおはなし

【その三「豊かな生き物たち」】

西神田町　石塚　寿一

春が来ると、安善さまの庭園の椿の花を訪ねてきて、「ホー、ホケキョ」と美しく鳴いてくれる「ウグイス」（鶯）のおはなしです。

この地に長く住む私には、ウグイスについて、いくつかの思い出があります。五十年ほど前のことですが、近所の御主人がウグイスを飼っておられました。そして天気の良い日には、その鳥篭を玄関の軒下に吊るされていましたので、私は自宅の部屋で居ながらにして、その美しい鳴き声を楽しむことが出来ました。「へー、姿はなかなか見せないウグイスは、こうやって人が飼うことも出来るのか。」これが驚きの一つです。

私の隣は、母（スミ）の実家で、むかし「染物屋」でした。染物屋とは、着物（和服）中心の時代には、その洗たく（「洗い張り」）も行います。そのとき、「しみ」（汚れ）を取るためには、ウグイスのフン（糞、うんこ）が、とても効果があるのだそうです。「フーン！ウグイスのフンで汚れ（しみ）が落ちるのか。」と、これも感心しました。

家内は、山菜採りが大好きで、その日には、私もその「お供」と「軽自動車運転役」でした。そして東山方面へ、春先に年に何回も通いました。私どもが、定年後に開始して、かれこれ数十年間、百回近く通ったでしょうか。

山菜採りは、先ず、雪解けの残雪から頭をのぞかせる「フキノトウ」（蕗の薹）から始まります。次には、本命の「ゼンマイ」（薇）、さらに、「ウド」（独活）、「アケビノツル」（山女の蔓）などです。そして初夏に、「ワラビ」（蕨）で一段落します。ヤブの中で、山菜取り作業に夢中になっていると、突然頭の上で「ホー、ホケキョ」と大きな声で、びっくりさせてくれるのが「ウグイス」です。すぐ目の前の低い灌木の繁みで鳴くのですが、「はて何処に居るのか」と目を凝らしても、その姿は一度も見たことがありませんでした。声はすれども姿は見せず、まるで「唄う忍者」ですね。

ところが、昨年（令和6年）4月17日、生まれてはじめて、野生の「ウグイス」の生の姿を観察することが出来ました。いつもの通り安善さまの駐車場に隣接する椿に来て鳴いているのですが、今回こそ、チャンスを逃すまい、直ちに、「日本野鳥の会」メンバーであった義兄（哲）の形見の、ニコン双眼鏡（8×30WF8．8°）を持ち出してきて、注意深く観察することが出来ました。その姿は、「原色日本野鳥図鑑」の通りで、この個体はまだ若い成鳥らしくて羽毛もきれいで、切れ長の目の模様をした「顔付き」。そして「色彩」は、葉っぱの表面の濃い緑色ではなく、むしろ葉っぱの「裏側」のややくすんだ、いわゆる「鶯色」です。チョコマカとすばしこく動き回るので姿を追うのがなかなか大変でした。

私にとっては貴重な小さな感動体験でしたが、写真に撮る器具と余裕は無くて残念でした。しかし、その姿ははっきりと頭に焼き付けることが出来ました。

実は、あとで改めて想うと、この4月17日は私共夫婦にとって、「結婚記念日」でした。昭和41年のこの日、高砂殿（現在の「アークベル平安」）で式を挙げ、それから苦節、艱難の、ちょうど58年目のこの日に、「ウグイス」の生の姿を見せて頂くことが出来たのです。私には、「これはきっと、神さまからの贈り物だな」と直感しました。人間、90年近くも生きていると、時々、神さまと「交流」出来ているような感じがすることが現実にあります。（「それ、痴呆の初期症状よ」と、誰かに傍らで言われたような気もします⁉）

さて、ウグイスについてもう一つお話しがあります。それは、「托卵」という、まことに「摩訶不思議な習性」です。「托卵」、すなわち卵を託けるのは、主にホトトギスです。（「ホートトギース、早も来、鳴きて！…」）

ウグイスとは別の種類のこのホトトギスが、他人のウグイスの巣に自分の産んだ卵を托す（預ける）のです。ウグイスは自分の産んだ卵より大きめの卵を自分の産んだ卵だと信じ、せっせと育てます。生まれてきたホトトギスの雛は、ほかの卵や、生まれていた雛が居れば、すべて巣の外に「蹴落とし」ます。そして自分がウグイスの雛になりすまして、餌を独り占めしてスクスクと育つのです。そしてやがて、飛べるくらいになると、いつの間にか、どこかへ飛んで行ってしまうのです。一体全体ウグイスはどんな気持ちなのでしょうね。知ってか知らずか。それとも、そんなことには一切無頓着なのか。現代人ならば、きちんと「養子縁組」でもして育てるのですが、自然界には「法律」はありません。あるのは、厳しい「自然の掟」のみ。

じつは、「カッコー、カッコー、五月の空にー……」と鳴き声をのどかに響かせる、まさに「カッコー（郭公）」鳥も、ホトトギス（科）の仲間で、ウグイスに「托卵」するのだそうです。びっくりです。そんなこんなの昨年、令和6年5月31日早朝5時ころ、その遠い鳴き声は数日前からあったのですが、一羽の「郭公」が、安善さまの高い欅の梢で数回「カッコー」と鳴いたのち、鳴きながら南の方角へ飛び去っていきました。

安善さまの深い森には、このようにウグイスのほかにも、ホトトギス、カッコー、そしてアオバズクも来ることがあります。以前には、キジ（雉）も来て「ケーン」と鋭く鳴きました。

次回は、安善さまの、このような自然と歴史の、「総ざらえ」として、動物たちや、植物たちを主体に、順不同で、気楽な雑談をしたいと思います。

【特集】

『一生の思い出』

東中学二年　近藤　真人

僕は十月十二日から二十一日までの十日間姉妹都市であるフォートワースで海外体験をしてきました。

僕は英語があまり得意ではなく、出発までできる限り英語を勉強しましたが不安な気持ちが大きかったです。

そしてフォートワースについたときには、温かくホストファミリーが迎え入れてくれたのでとても嬉しかったです。

最初の二日間はホストファミリーと買い物に行ったり、家で遊んだりたくさんのふれあいをして仲を深めていました。同時にアメリカと日本の生活の違いにも気づくことができました。

「お世話になったホストファミリー」

靴のまま家に入ることや、箸がないこと、人との関わり方などとても驚きと関心を持ちました。学校ではフレンドリーな子が多く手厚く歓迎もしてもらい、友達もたくさんできました。

自分なりに英語とジェスチャーでコミュニケーションを取りました。学校でも、授業は日本ではありえないほど自由な様子でとても衝撃的でした。

アメリカで有名なアメリカンフットボールの練習や試合を見るなど日本ではできない貴重な体験もできました。またフォートワースで有名なストックヤードという街にも行きました。ガイドの人からストックヤードの歴史についても説明してもらいました。たくさんのお土産も買うことができ、最高の体験となりました。

日本で準備していた文化紹介も行いました。僕はお寺に住んでいるので一番身近にある畳について紹介しました。自分を含めて仲間全員で素晴らしい発表をすることができました。

学校最終日には仲良くなった友達ともお別れしてしまうことになり、とても辛かったです。僕は貴重な体験をさせてくれた学校のみんなに感謝しています。そして帰国前日にはさよならパーティーがありました。最後の触れ合える機会だったので思いっきり楽しむことができました。

帰国当日には感謝の手紙を渡し、お別れをしました。アメリカ滞在中、ホストファミリーをはじめ様々な方が生活を支えてくれたことに本当に感謝をしています。

僕はこの海外体験で日本との文化の違いをものすごく感じることができました。楽しかったで終わるのではなく学んだことを周りに発信したり、この先の自分の将来にも活かしていきたいと思います。

マイコプラズマ感染症ってどんな病気？

太田　匡哉

マイコプラズマ感染症は、マイコプラズマニューモニア（以下マイコ）という細菌の感染症です。マイコは「細菌だけど不思議な病原体」と言われます。それはマイコプラズマには他の細菌が持っている細胞壁がないため、一般的な抗生物質が効かないことがあるからです。また症状が初期は風邪と似ているためウイルス感染と間違えられることもあります。

昔は「オリンピックの年に流行する」なんて話もありましたが今は毎年感染がみられていました。ですが、コロナ禍の影響でしばらく見かけませんでした。それが２０２４年になって久しぶりに大きな流行が見られました。昨年末はこんなにマイコ肺炎の患者さんを診たことないと思うくらいたくさんの患者さんがいました。そのため今年も引き続き注意が必要になるかもしれません。

症状として一番特徴的なのは、咳が長引くことです。乾いた咳からだんだんと痰がからみになり長引くと３週間以上続くこともあります。咳に加えて、発熱や喉の痛み、体のだるさなども出ることがあります。小さいお子さんだと咳がひどくなりがちで、夜眠れなくなったり咳で吐いたりすることも。一方、高齢の方は体力が落ちていると重症化しやすいので油断は禁物です。咳で寝られない、食欲が落ちた、熱が続くなどあれば自宅で様子をみるのではなく早めに受診しましょう。

治療には抗生物質を使います。ただしマイコは先ほどお伝えしたように細胞壁がないので、全ての抗生物質が効くわけではありません。症状が長引きやすいので治療になかなか苦労することもあります。

感染して気を付けたいことは人にうつさないことです。飛沫感染するので咳でマイコを飛び散らせないようにすることが大切です。咳が出たらマスクをつける、手洗いをこまめにするなどの対策を心がけましょう。こどもたちは学校や保育園で広がりやすいので、マイコプラズマ感染の診断がついたら強い咳が収まるまでは感染力があるため登校登園を禁止します。大人は会社を休ませる規定がないので出勤は各会社の判断になります。高齢の方は、体力が落ちていると肺炎に進行することもあります。特に持病がある方は、早めの受診をおすすめします。

マイコプラズマ感染症は、正しい治療をすれば重症化を防ぐことができます。「咳がなかなか止まらない」「熱が続いている」という時は、無理せずかかりつけの先生に診てもらいましょう。そして、日頃から手洗いや咳エチケットを忘れずに、大切な家族や友達を守るためにコロナ禍で学んだ対策を活かしたいですね。

安善寺 よろず掲示板

『寺行事予定』

元旦　新年大祈祷
　　檀中一般年賀来山
一月一日～三日
　　三朝祈祷
一月十九日
　　初月忌総代・世話人会
二月六日
　　吒枳尼尊天初午大祭典

安善寺 庭園型樹木葬『翠緑の小径（すいりょくのこみち）』

お盆に樹木葬墓地で御法要
どなたでもお申込みいただけます 檀家になる必要はありません
後継者がいなくても安心（永代供養墓）
事前予約できます
最大３霊まで個別にお祀りします
寺院の敷地内だからずっと安心 永代のやすらぎをお届けします

【お問合せ】株式会社 放光
フリーダイヤル 0120-811-112

安善寺 樹木葬墓地ご案内ページ
https://anzenji-jyumokusou.com/

仏さまのおすそわけ
数珠つなぎフードパントリー
～誰ひとりとり残されない世の中に！お寺を提供の場へ～

食材や日用品の提供にご協力ください！！

＊詳細はお寺にお尋ねください＊

協力：新潟県フードバンク連絡協議

第一〇九号は令和七年三月八日(土)発刊予定です

「にゃんにゃん日記」

今年もみんな成長する一年になりますように

冬は暖かい部屋でのんびり過ごすのが一番！なのに近頃二階にマロがきて走りまわるものだからまったく落ち着きません。私やビビと一緒に遊びたくて近づいてくるのですがついついシャーっといいながら必殺猫パンチを出してしまうのです。

けれど久美さんはあのくるくるヘアーにまん丸な目をした小悪魔マロに誘惑されメロメロになってしまったようです。私もビビもそんな様子を冷めた目で遠くから見ている今日この頃です。

さて二〇二四年は皆それぞれに成長した一年となりました。悠真君はダイエットに成功、そして小学校では〝悠真君は強く生きていける〟と先生にお墨付きをいただけるほど精神的に大人になりました(笑)。

真人君は中学校生活を忙しく過ごしていましたが、なんといっても十月に行ったアメリカでのホームステイは彼の一生の思い出となったでしょう。異文化に触れ、そしてホストファミリーとの生活を通していろいろなことを感じ、学んだようです。ただ、アメリカに忘れ物をして帰国早々怒られてはいましたが…(笑)

子供達が成長するのと同時に、住職や久美さんは横に横にと徐々に成長しています。今年こそはダイエットするぞ！と意気込む二人ですが、毎年同じことを聞かされているような気がします。

さあ今年はどんな一年になるのでしょう。悠真君は中学生に、真人君は受験生になり忙しくなりそうです。久美さんは〝穏やかな気持ちで過ごす〟を毎年抱負にしています。子供達の様子を見る限り今年も達成できないような気がします。私とビビはマロと仲良く過ごすことができるといいなあ。がんばるにゃ～ん

「新しく家族に加わったマロちゃんと」

編集雑感

新年、明けましておめでとうございます。本年の干支は「乙巳」(きのとみ)です。十干と十二支を組み合わせた六十干支では四十二番目にあたります。蛇は古くから復活と再生の象徴ともされ七福神の弁財天の使い神でもあるため、幸運の動物ともされています。巳(ミ)は十二支の6番目で、ヘビを表す漢字です。巳の文字は、胎児の形から派生したもので「産まれてくる」「将来・未来がある」などの意味があります。また、実とも読み替え、お金が「身(実)に付く」とも言われています。蛇は脱皮しながら成長するため「生命」や「再生」の象徴とされています。また、神の使いとして神聖視され日本では弁財天の使いとしても信仰されています。

巳と言えば左程の違和感はないが、蛇と言われると毛嫌いする不思議！好き嫌いがあるのであまり触れたくないが、やはり蛇は嫌いです。それでも巳の意味が優位になりそれなりに信じる自分がいるから恐ろしい。

何事もまずは信じることが大事世の中がどんどん変わって行く、それについて行くだけでやっとお年を召された方々には大変でありましょう。便利になるデジタル化は年寄りにとっては難しい世の中になったと溜息が出て来ます。急速に変わる世の中で不安や驚きを隠せない。この世で良いのか不安にさえなります。新年早々これで良い訳がないと思いながら時間は過ぎて行きます。この季刊誌も長く続いています、時代が変わっても大切な事があります、それは記録と継承でしょう。この季刊誌も編集者が変わっても記録し継承せねばなりません。若い方々の参加を期待し年頭の編集雑感を書いています。今年は巳年だけに新しく参加してくれて脱皮した内容になるよう期待しています。

問い合わせは安善寺住職まで！

(小林　国二)

お便り原稿用紙

皆様からの原稿をお待ちしております。

原稿の例
- ●思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- ●私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- ●教えてください／仏事のしきたりや疑問（編集部や住職がお答えします）など。

〈原稿送付先〉FAX 0258-32-2870
メール info@anzenji-nagaoka.com
HP にも申込フォームがあります